活き活きと輝き、誇れるまちの今をあなたに届ける
広報湯前
Public Relations
Since1962
http://www.yunomae.com/
［まちの情報誌ゆのまえ］
やっと捕まえたー？
特集　いきいきクラブ
笑顔支える
地域の輪
フォトリポート
ぶどう祭り
焼酎蔵祭り
9
TheMonthly
Sep_2018
Vol.447

女性87.14歳、男性80.98歳。平成28年度の厚生労働省の調査で、平均年齢は過去最高を記録しています。誰しもが付き合っていく体と心の衰え。「いつまでも元気に暮らしたい」という思いはみんな同じです。そんな中、住民がみずからが介護予防に取り組む「いきいきクラブ」が各地で始まっています。今回は、地域の介護予防について考えてみませんか。

特集　いきいきクラブ

笑顔支える地域の輪

少子化で日本の人口が減っている中、２０６０年には日本人の４人に１人が75歳以上になると予想されています。

介護を必要としている人を社会全体で支え合う「介護保険制度」が始まって18年が経ちました。当初２１６５万人だった65歳以上の保険加入者は、昨年４月で３４６６万人まで増加。サービスにかかる費用は昨年時点で当初の３倍となる10・8兆円。40歳以上の国民が納める介護保険料も約２倍になっています。

介護給付と65歳以上が納める月額保険料（全国平均）の推移

※厚生労働省HPより、2025年は予測値

寿命と健康の差は10年以上

現在、町内で介護が必要な人のうち、中・重度（要介護３以上）の人が約４割を占めています。町の介護にかかる費用も増えていることから、私たち一人一人が、長く健康でいることが求められています。

平成22年度の本町の平均寿命は男性80・4歳、女性86・3歳で、健康的に生活できる期間を示す「健康寿命」の昨年度結果は男性67・5歳、女性74歳。不健康な期間の平均は男性12・9年、女性12・3年となっています。

各地区で「いきいき」

国は3年前に介護予防事業を大幅に見直し、住民が自主的に介護予防に取り組む制度も始まりました。

本町では一昨年の10月に、上村と野中田２の２地区で、介護予防を目的とした「いきいきクラブ」が発足。現在16カ所にまで広がっています。

住民が各公民分館など身近な場所に集まり、週一回活動。元気に生活するための筋力をつける「いきいき百歳体操」などを行い、汗を流しています。

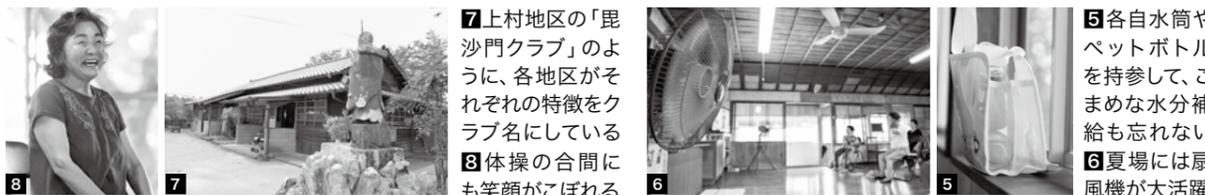
立ち上げ後１カ月の間、町職員や専門職が支援したあと、住民が自主的に運営。６カ月ごとに足腰の力や握力などを測定するので、自分の健康状態を知ることもできます。

❶公民分館にイスを並べて体操、いきいきクラブは１６カ所まで広がっている❷住民みずからが取り組み、介護予防に汗を流している❸おもりをつけたり外したりすることで、自由に負荷を変えることができる❹いきいき百歳体操はテレビモニターが先生

二つの通所サービス

専門職からの聞き取りの結果、認知機能や体力の低下がみられる人には、二つの通所サービスがあります。一つは毎週火・水曜日の午前中に行っているミニデイサービス「寿友気楽（じゅうきらく）」。介護福祉士が支援し、運動やゲーム、講話などの活動で体力、活力づくりをしています。

もう一つは毎週水曜日の午後にB&G海洋センターで行われている「いきいきB&Gクラブ」。約４カ月の間に専門職の支援を受け、もとの元気を取り戻すことを目標にしています。理学療法士や作業療法士などの専門職が週替わりで認知症予防の知識や、自宅でできる運動、口の手入れの方法などを参加者に指導しています。

❼上村地区の「毘沙門クラブ」のように、各地区がそれぞれの特徴をクラブ名にしている❽体操の合間にも笑顔がこぼれる

❺各自水筒やペットボトルを持参して、こまめな水分補給も忘れない❻夏場には扇風機が大活躍

❶クラブ発足以前に開いていた茶話会のなごりで、体操後にも茶話会を開き、交流を深める山之口公民館の「ことぶきクラブ」。それぞれ料理を1～2品ずつ持ち寄り、笑顔で料理と会話を楽しんでいる ❷机出しやお茶の準備、御大師に供えるための花もそれぞれ持ち寄るなどみんなで準備している

「楽しい」はつくれる

「継続は力なり」。続けていくことで効果が現れます。楽しく、工夫して介護予防を続けようとする地区や住民を取材しました。

「あとから」が楽しみなことぶきクラブ

60代後半から88歳までの12人が通う山之口公民館の「ことぶきクラブ」。暑さの厳しい夏以外は体操後に茶話会を開いて交流を深めています。

発足以前、地区の女性10人ほどが講金※で定期的に集まっていましたが、高齢を理由にやめることに。「何もないのは寂しい」と月1回の茶話会を開催し、クラブ発足後も続いています。

料理と会話が一番

体操を終えるとみんなで机を出し、お茶の準備。トマト、キュウリ、ナスなどの旬の野菜を使った漬け物にゼリーなどのおやつ。参加者が1～2品ずつ料理を持ち寄ります。

椎葉トヨさん(81＝馬場)は「体操をしてさようならでは寂しい。こういう集まりは『あとから』が一番の楽しみ。料理は自宅で食べるものを小分けして持ってくるだけ。大変なことは何もないですよ」とクラブの醍醐味を話します。

机の上はキュウリやトマト、ナスなど、旬の野菜を使った料理やゼリーなどのおやつでいっぱい。「上手な人の料理を食べると張り合いたくなる」と料理の情報交換の場にもなっている

みんなでつくる楽しみ

茶話会では、時間を忘れてみんなで楽しくおしゃべり。椎葉さんは「どぎゃん(どのように)して作ったと? 調味料は何を入れたと? などと料理の作り方を聞き合っています。上手な人の料理を食べると、勉強になります」と笑顔。

春にはタケノコのにしめや混ぜご飯を作り、外の八重桜で花見。ことぶきクラブには季節ごとの楽しみもあります。

8月3日には、高齢者叙勲を受けた西岩人(いわと)さん(88＝馬場)をみんなでお祝いし、記念品やお菓子などをプレゼント。椎葉さんは「集まりは楽しみ。集まりを無くさないように、みんなで楽しいと思えるクラブを続けていきたいです」と思いを語りました。

椎葉 トヨさん
(81＝馬場)

「あとからが楽しい」と椎葉さんが話すように、時間を忘れておしゃべり。集まりたいと思える楽しみ

※信頼のおける仲間同士が、定期的に集まって、お金を出し合い、順番にまとまった金額を手に入れる仕組み。仲間同士の交流を深めることも目的としている

インターネットを使って題材を調べ、参加者に脳トレクイズを出している亀山さん

歴代○○で頭の体操

モデル地区の一つとして始まり、約2年間続く野中田2の振興館クラブ。区長の亀山哲馬さん(71＝野中田2)は「体の体操だけでなく、頭の体操も自分たちでできないかと以前から思っていました」と、約1年前にみずから「脳力トレーニング(脳トレ)」を考案。年に数回、参加者にクイズを出し、みんなで認知症を予防しています。

亀山 哲馬(てつま)さん
(71＝野中田2)

知っているけれど出てこないもの

クイズのテーマは「だれでも知っているけれど、なかなか答えが出てこないもの」。亀山さんはインターネットなどを使って題材を探します。厚紙にペンで書き込みカードを作成。歴代の総理大臣や歴代町長の名前、文字を反転させて読み方を問うものなど、さまざまな題材を考えています。

クラブの参加者は、みんなで頭を悩ませながらも楽しく脳を活性化。「どこの地区も男性の参加者が少ないと聞いています。男性にも参加してほしいですし、老化は早くから始まるので、若いうちから参加してほしいですね」と亀山さんは話します。

経験や知識を眠らせず地域に貢献

介護予防サポーター
山内 美知枝(みちえ)さん (69＝中里2)

Profire
長年、病院で看護師として勤務した経験を生かそうと、介護予防サポーター養成講座を受講。地区やいきいきB＆Gクラブなどに参加し、取り組みに協力する。

介護予防に協力するボランティア「介護予防サポーター」として活動する山内美知枝さん(69＝中里2)。地区のクラブでは、正しい体操の仕方やコツをアドバイス。いきいきB＆Gクラブでは、参加者の血圧を測り、一緒に体操するなどして協力しています。

下の世代に迷惑をかけない

昨年まで看護師として病院に勤めていた山内さん。「訪問看護などにもかかわっていて、地域の健康づくりに貢献したいと思っていました。私自身、団塊の世代の人間。『ピンピンコロリ』で子どもたちに迷惑をかけずに、自立した生活を送りたいという思いもありました」とサポーターになった理由を話します。

町の養成講座で人との関わり方や認知症の知識、筋力維持の方法などを学んで活動。「基本的に人とかかわることが好きです。教えるというよりも自分が学ばせてもらっています」とB＆Gクラブでは、活動に協力しながら専門職から介護予防に必要な知識を学び続けています。

みんなの笑顔に会いに行く

行く先々で出会う参加者の笑顔。「皆さんの姿をみると、自分もやらなければと思わされます。活動で人のつながりも増えました。私も仕事を辞めてから閉じこもりがちでしたが、外に出て皆さんと話すことで気分転換になります」。

一方で仲間がまだまだ足りないと話します。「私は今までやってきた経験や知識をそのまま眠らせてはいけないと思いました。町内には同じような思いや知識を持つ人がいるはずです。一緒に活動してくれる人が増えるとうれしいですね」と山内さんは新たな仲間を心待ちにしています。

介護予防サポーターの集いで仲間と意見を交わす山内さん

地域の輪が生み出すもの

住民が主となってつくる通いの場。取り組みを続けていくことで、私たちにとって、まちにとって、どのような効果があるのでしょうか。いきいきクラブ発足当時から、活動を支援してきた専門職や参加する住民に話を聞きました。

社会福祉協議会
生活支援コーディネーター
黒木 真也（しんや）さん（42=上里３）

Profire
平成27年度末から町の委託を受けて活動。住民の介護予防や生活支援を担当。福祉の面からまちづくりを考える専門職。

通いの場がつなぐ地域のきずな

町からの呼びかけだけでなく、良い取り組みとして住民の間でも広まってきた、いきいきクラブ。ある地区では、始めたばかりで体操に使うイスがなくても、「あるもんで始めよう」と元々公民分館にあった長いすや簡易いすを使用。必要な道具を買いそろえた地区もありました。

活動を支援してきた社会福祉協議会の生活支援コーディネーター、黒木真也さん(42＝上里3)は「皆さんに『自分たちで』という意識があるから活動が続いているのだと思います」とその理由を話します。

助け合いのきっかけに

近年なくなりつつある近所の集まり。その役割を果たすのが、いきいきクラブだと黒木さんは話します。「住民が一つの場所に集まることで『欠席した人の家を帰りがけに訪ねてみよう』など地域の見守りにもつながっています。外に出て閉じこもりを防ぎ、仲間と会話することで認知症予防にもつながります」。

一方で課題もあります。自宅から公民分館まで距離がある人は通いたくても通えず、運転できる人に連れてきてもらわなければなりません。その課題に対し、黒木さんは「通えない人の近くに気配りができる『世話役』の存在が必要です。通いの場で住民同士のきずなを深めることが、地域に必要な人材を生むきっかけになります。一緒に買い物に行くなど、小さな困りごとでも助け合えるようなつながりが、地域をよくしていくはずです」と話します。

「みんなに会いたい」が成功のカギ

クラブが長く続いていくためには「参加したい」という気持ちが大切です。人と人のかかわりについて黒木さんは「よく話し、よく笑い合う。『みんなに会いたい』という気持ちが強くなれば、長く続いていくはずです。通い続け、心も体も健康になることが一人一人の生活の質を向上させ、町全体が魅力ある地域に近づいていくのではないでしょうか」とまちづくりにもふれながら話しました。

夢を叶える筋力運動「貯筋」は40歳から

介護予防事業支援員
葉山 千鶴（ちづる）さん（57=田上）

Profire
平成25年から保健福祉課勤務。平成30年から介護予防事業支援員。介護予防の日程やデータを管理。

下肢筋力の向上

いきいきクラブの参加者は第1回の活動のときに「散歩を続けたい」「グラウンドゴルフがしたい」などと、それぞれ目標を掲げて活動します。

高齢の人も若い人も、運動を始めるのに早すぎることも遅すぎることもありません。クラブの参加者には、運動を続けたことで機能が回復し、今までできなかったことが、できるようになった人もたくさんいます。

体力測定のデータを管理する介護予防事業支援員の葉山千鶴さん(57＝田上)は「すべての行動の基礎になるのが下半身の力。いきいき百歳体操を続けているほとんどの人が、下半身の力を向上できていたことが分かりました」と体操の効果を話します。

生活変える早めの「貯筋」

立ったり、歩いたりする動作に支障が出て、要介護や寝たきりになる可能性が高くなることを「ロコモティブシンドローム」(ロコモ)といいます。太もも前の筋肉は、まったく動かないでいると2日で1％減少。これは通常年をとるときの1年分。入院などで2週間動かない生活を送ると、筋肉は7年をとったことと同じになります。

骨や筋肉の量のピークは20～30代。弱った骨や筋肉では、40～50代で体の衰えを感じやすくなり、60代以降、思うように動けない体になってしまう可能性があります。葉山さんは「介護予防は40歳から始めるのが良いと言われています。長く健康でいつづけるためには、普段から生活に使う筋肉を大きくしておく『貯筋』が必要です」と運動の大切さを訴えます。

すぐにできる予防の方法について葉山さんは「骨や筋肉は適度な運動で刺激を与えて、適切な栄養を摂ることで、強く丈夫に維持されます。ウオーキングなど、早めに運動する習慣をつけることや、今より10分多く体を動かすことも効果的です」と話しました。

ロコチェック
Loco check

一つでも当てはまれば要注意？

７つのうち一つでも当てはまる人は、ロコモである可能性があります。トレーニングの方法を保健福祉課で紹介していますので、気軽にお尋ねください。

- ☑片足立ちで靴下がはけない
- ☑家の中でつまづく、すべる
- □階段を上るのに手すりが必要
- □横断歩道を青信号でわたりきれない
- □15分続けて歩けない
- □2kgの買い物をして、持ち帰るのが困難（牛乳パック2個程度）
- □布団の上げ下ろし、掃除機の使用など重い仕事ができない

体力測定
Physical Strength

歩行や足の指の力が向上

「散歩するときに体が軽くなった」と効果を実感している西門保典さんの体力の変化を紹介します(H28.10.30 → H30.2.5 の変化、太字は向上している数値)。

【握力】右:36.4→31.4 左:29→**34**
【TUG】※1 4.7秒→6.8秒　【片足立ち】右:6.3秒→**11**秒 左10.6秒→5.0秒
【5㍍歩行】通常4.0秒→**3.8**秒 早歩き2.9秒→**2.6**秒【足指力】※2 右1.7→**3.6** 左1.2→**2.2**

※１ TUG(タイム・アップ・ゴー)…イスから立ち上がり、3㍍を折り返して着座する速さ
※２ 足指力……足の指で挟む力

振興館クラブ
西門 保典（やすのり）さん
（59＝野中田２）

Voice 参加者の声

ひざの痛みが軽くなった

松原クラブ
荒川 征子（せいこ）さん
（79＝上里１）

地区とかようクラブ（保健センター）の２カ所で体操を続けています。左ひざが痛く、立ち上がるときもふらついていましたが、体操をしてから痛みが軽くなりました。仕事で朝から菊をつんでいますが、以前より楽にできるようになってうれしいですね。

立ったまま靴下がはけるように

毘沙門クラブ
多良木 秀幸（ひでゆき）さん
（70＝上村）

体操を始める以前は、ふらついて立ったまま靴下がはけなかったのですが、続けて半年になるころ、変化が現れました。足腰がしっかりして、立ったまま靴下がはけるようになりました。地区の皆さんの中にも効果を実感している人がたくさんいます。

歩くのが楽になった

ことぶきクラブ
椎葉 シズカさん
（76＝馬場）

地区とB&Gの２つのクラブに通っていました。夜寝るときもひざがうずいて、となりの家に回覧板を持って行くだけでもきつかったのですが、通い始めてからひざの痛みが軽くなりました。今では、公民分館に歩いて通い、少しずつ畑仕事もやっています。

笑顔は健康、健康は幸せ

このまちで、ずっと笑って暮らせることが幸せの証――

増え続けることが予想される介護の需要。労働者の数が減っていることから、２０２５年には全国で38万人ほどの専門職が足りなくなるといわれています。

今までは支え手、受け手という関係で介護が成り立っていました。これからは住民が他人事を「我が事」としてとらえ、人と人が「丸ごと」つながることが求められています。いきいきクラブの活動もその一つです。

健康。それは病気や障害の有無にかかわらず、毎日を笑顔で過ごせること。いきいきクラブという通いの場で住民が会話を交わし、多くの笑顔が生まれています。一人一人の笑顔が住民同士のきずなを生み、まちづくりに必要な助け合いの心を育てています。

まわりを見渡してみてください。きっと、あなたのそばには、笑い合うことのできる仲間がいるはずです。

いつまでも自分らしい生活を送り続けるために。まずは家の外に出て、仲間づくりから始めてみませんか？

あなたも活動しませんか？

■少人数から可能、いきいきクラブの開設は保健福祉課（℡０９６６-４３-４１１２）まで

■だれでもかよえる「かようクラブ」

内容：いきいき百歳体操などの筋力運動

時間：毎週火曜日　午後1時30分～

場所：保健センター

■ものづくりで介護予防「木楽話笑（きらくわしょう）」

内容：季節の行事のもの作りなど、創作活動

時間：毎週木曜日　午後1時30分～

場所：保健センター

※かようクラブと木楽話笑はだれでも参加できます

■介護予防サポーター養成講座

秋ごろに開催予定。日程は旬報でお知らせします。

特集　笑顔支える地域の輪（完）―

Hotopi
ホットピ
ホットなわだいをあなたへ

No.1

球磨郡消防ポンプ操法大会
第2分団第1部（上下染田）2位で県大会へ

惜しくも連覇は逃したものの、2位で県大会へ出場する第2分団第1部

第31回球磨郡消防ポンプ操法大会は7月29日に相良村総合運動公園で開かれ、郡内の各町村から自動車ポンプの部に3チーム、小型ポンプの部に9チームが出場。自動車ポンプの部に出場した第2分団第1部（上下染田）が2位となり県大会への出場を決めました。

消防操法の技術を高めるために熊本県消防協会球磨支部（松野三千夫支部長）が主催。2年に一度開かれ、各町村の予選を勝ち抜いた代表が終結。自動車ポンプ、小型ポンプの部の上位2チームが県大会に出場できます。

開会式では大会2連覇中の第2分団第1部を代表して、指揮者の椎葉恭介さん（41＝下染田）が力強く選手宣誓。競技では、惜しくも3連覇達成はなりませんでしたが、機敏な動きを披露し、2位で県大会への出場を決めました。小型ポンプの部に出場した第3分団第3部（野中田）は9位となりました。

県大会は9月2日に山鹿市で開かれる予定です。競技結果は次のとおり。

競技中の選手の顔は真剣そのもの

■**競技結果**

※（）は指揮者→1番→2番の順

○**ポンプ車の部**

①多良木町

②**湯前町（椎葉恭介、中釜由晴、瀬谷憲功、中田潔裕、椎葉浩樹）**

③水上村

○**小型ポンプの部**

①水上村

②球磨村

③五木村

⑨**湯前町（廣田祐哉、堤一矢、東伸豪、苗床貞文）**

❶本町消防団員の応援を受けて競技❷小型ポンプの部に出場した第3分団第3部

Tシャツにも刻まれる「夢現」をテーマに、来年のリベンジを誓う選手たち

No.2

小・中学生全国空手道選手権大会に陽心館が出場
11選手が全国の舞台を経験

文部科学大臣杯第61回小学生・中学生全国空手道選手権大会は8月4、5日に宮城県利府町のセキスイハイムスーパーアリーナで開かれ、本町の空手クラブ「陽心館」（藤岡孝史代表）の小・中学生11人が出場し、大舞台での経験を積みました。

都道府県の予選を勝ち抜いた全国の強豪が集う大会で、日本空手協会が主催。11人は4月に行われた熊本県大会で優勝、準優勝を収め、県の代表として出場しました。

団体戦組手では、39チームが出場した小学生・高学年女子に清川真帆さん（湯前小学校5年＝植木）、石井愛子さん（同＝中里2）、多良木姫愛来さん（同＝上村）、68チームが出場した同・低学年男子に石神悠翔さん（同校4年＝古城）、多良木智稀さん（同＝上村）、河内聖人さん（多良木小学校4年＝多良木町）が挑みました。女子は初戦の長野県代表との試合で、先鋒、中堅が勝利を収め、初戦を突破しますが、2回戦は1勝2敗で敗退。男子も初戦は長野県代表に2勝1敗で勝利し、2回戦は不戦勝、3回戦に進みますが、先鋒、中堅で2敗を喫し、惜しくも敗退しました。

個人戦では、135人が出場した小学3年・男子組手で村山匠人さん（湯前小3年＝上村）が1、2回戦を突破。藤岡さんが「相手の動きをよく見てカウンターを決めていた。空手を始めて1年とは思えないほど」と話す戦いぶりで健闘しました。

全国大会を振り返って、藤岡さんは「結果は出なかったが、自分の技を出せるようになるなど、年々試合の内容が良くなっている。あとは『今』というときに技を決めきれるかどうか。5・6年生の部に5年生だけで出場するなど、経験を積めたことが大きい。来年は、全流派が集まり、オリンピックへつながる全国大会に出場することが目標。これからも大きな試合が続いていくので、試合の中で、さらに成長していってほしい」と話していました。

団体高学年と個人小学５年組手に出場
多良木 姫愛来さん（湯前小５年＝上村）

観客が昨年の倍ほどに感じるほど、たくさんの人がいたので、緊張して気持ちが弱くなってしまいました。練習でもっと強い相手と練習をして、心と体を鍛えて来年は優勝したいです。

個人小学3年組手で3回戦に進出した
村山 匠人さん（湯前小３年＝上村）

はじめは緊張していましたが、大会では突きなどの今まで練習してきた成果を発揮することができました。練習でけりを鍛えて来年は優勝できるように頑張りたいです。

キッズプログラミング講座
動くロボットに興味津々

みんなで考えながら、楽しくロボットを動かす児童たち

キッズプログラミング講座が8月16、17日に、ふれあい交流センター「湯〜とぴあ」で開かれ、小学3〜6年生26人がロボットやタブレット端末を使ってプログラミングを学びました。

2020年に全国の小学校で必修となるプログラミングに興味を持ってほしいとのICT（情報通信技術）利活用推進協議会（会長＝鶴田正己町長）が主催。地域のICT推進にかかわる九州地域情報化研究所代表の横山正人さんが講師を務めました。

初日は入門編としてロボットを使ったプログラミング、二日目には応用編として、タブレットを使ったアニメーション作りが行われました。

初日の講座では、横山さんが運動会や入学式のプログラムを引き合いに、「プログラミングはある物事の進行についての順番や作業の順番のこと。今日はロボットに順番を指示してあげよう」と分かりやすく説明。

イモムシ型のロボットに「前進」「右折」などの矢印がついた八つの胴体を組み合わせ、みんなでどう動くのか考えながらゴールを目指しました。

「どうやったらちゃんと言うことを聞くのだろう？」と頭を抱えながら、試行錯誤

色の組み合わせでスピードや方向などを変えることができる「オゾボット」という小型ロボットも使いました。参加者は紙に書かれたコースに赤、黄、青などのシールをはって、ロボットの動きを調整し、ゴールを目指していました。一番にロボットをゴールにたどり着かせた植木陽菜乃さん（湯前小学校5年＝馬場）は「ロボットへの命令がうまくいかないこともあったけれど、命令通りに動いたときやゴールできたときはうれしかった」と話していました。

胴体をつなぎ合わせて動く方向を決めるイモムシ型ロボットに興味津々

No.4
焼酎カクテルで乾杯
ユノカフェで一日BAR（バー）

❶色とりどりのおしゃれなカクテルを楽しむことができた一夜 ❷たくさんの人が訪れた夜のレールウイング

奥球磨スマートタウン研究所（横山正人代表理事）が運営するユノカフェは一日限定バーを7月28日に開き、来場者は球磨焼酎を使ったカクテルを味わいました。

レールウイング内にある同カフェは、普段、午前10時〜午後4時の間に、コーヒー、ハーブティーなどのドリンク、ピザ、パフェ、ケーキなどの軽食やランチを提供しています。

今回は、将来定期的に開催する予定だというバーをお試しで開催。「ユノバー」という名前で午後6時半〜午後9時まで店を開き、幅広い年齢層が立ち寄っていました。

米焼酎「極楽」をてがける林酒造の杜氏で、バーテンダーとしての経験を持つ林泰広さん（48＝下城）を招き、「ユノモヒート」「ヤマセミ」「カワセミ」など、リキュールと焼酎を組み合わせたカクテル、ノンアルコールカクテルとおつまみを提供。来場者は色鮮やかなカクテルを見て、飲んで楽しんでいました。

INFORMATION
町からのお知らせ

SPORTS
B&G海洋センターだより

総合運動クラブ【後期】参加者とクラブコーチを募集しています

熊本県では平成31年度から小学校の運動部活動がなくなります。本町は児童が放課後に、体力づくりや仲間づくりができるよう総合運動クラブを設立。6、7月は、体幹づくりやニュースポーツ体験を開催しました。同クラブでは、走る・跳ぶ・投げるといった基本運動能力を高め、心・体の成長を目指しています。ぜひ、お誘いあわせのうえ、参加してください。

児童の見守りを行うコーチを募集しています。資格の有無は問いません。子どもたちと一緒に体を動かしてみたい人は、事務局まで気軽にご相談ください。

◇開催日　（後期）10月4日〜2月28日（毎週木曜日）
　※冬休み期間中は休み、施設使用状況で休みになることもあります
◇時間　午後4時30分〜午後5時30分
◇場所　湯前小学校体育館
◇対象　湯前小学校3年生〜6年生
◇内容　遊びを通した体力づくり、スポーツ体験など
◇参加費用　平成30年度は試行期間のため、無料で参加できます
◇コーチ　荒木　利八さん（野中田3）　亀山　哲馬さん（野中田2）
　愛瀬　昭彦さん（下城）　森下　一富さん（馬場）
　工藤　維春さん（下城）　味岡眞由美さん（下村）
　林　泰広さん（下城）　安井　佳奈さん（中猪）

お問い合せ　小学校運動部活動検討委員会事務局　教育委員会　社会体育係　TEL0966－43－4555

ぶどう祭り 焼酎蔵祭り

1「何グラムかな〜?」、友だちと笑顔で予測2実際にブドウを持ち上げる大人3直売会は開始約1時間で完売4利き酒大会で一つ一つの焼酎を吟味5ヨーヨー釣りを楽しむ親子6見事に重さを当てて、笑顔の子どもたち7多くの人でにぎわう会場8見た目で分からないように同じびんが並ぶ

2018湯前ぶどう祭り＆焼酎蔵祭り(上米良秀人(ひでと)実行委員長)が8月18日に農村環境改善センターで開かれ、ブドウの直売やスイーツ、焼酎などをめあてにたくさんの人でにぎわっていました。

今回初めて焼酎を合わせた祭りとして開催し、JA球磨湯前ぶどう部会(大谷茂喜(しげき)部会長=7戸)や豊永酒造、林酒造、くま川鉄道などが協力しました。

直売会では巨峰やピオーネ、ゴルビー、シャインマスカット、ニューベリーAなど黒・赤・白、7種類以上がずらり。開始前から買い求める人が殺到し、約1時間で500㌔が完売。「ブドウの重さ当てクイズ」では9種類30房ほどのブドウが用意されました。

ステージでは6種類の焼酎を飲んで当てる「利き酒大会」を開催し、焼酎好きの大人たちが参加。会場には2社の焼酎の試飲や販売、製菓店のタルト、大福、ドーナツ、ゼリー、ソフトクリームどのスイーツやジュース、町内業者の生ビール、唐揚げ、焼きそば、カレーなどの絶品グルメがあり、にぎわっていました。

9「おいしね」と試飲を楽しむ来場者10大きな声で重さ当ての当選者を発表する生産者11 2社の焼酎の試飲コーナー12製菓店のスイーツは舌を巻くおいしさ13利き酒大会中も、笑顔14浴衣姿で焼きそばを販売した青年団15太鼓の音を響かせ、会場を盛り上げた慈流会のエイサー

よく褒めて子を伸ばす
特別支援連携協議会研修会

特別支援連携協議会（会長＝中村和弘教育長）の夏の研修会が７月27日に農村環境改善センターで開かれ、教育・福祉関係者や地域住民など112人が上手に子どもを伸ばすコツを学びました。

会長の中村教育長は「子どものニーズに合わせ、保・小・中の連携にも取り組んでいる。０歳から15歳までの一貫した子育て、教育が大事。講演の内容をまわりの人にも広めていただきたい」とあいさつ。

湯前中学校で特別支援学級を担任する加藤仁士さん（54＝下村）が講師として、「普段からこまめにほめる」「叱ったあとに褒める努力を」などと、子どもの接し方を発達障害の知識とともに参加者へ伝えていました。

加藤さんからほめ方のコツを学んだ参加者

森づくりへの思い学ぶ
JT・JR新入社員湯前研修

本町とともに森づくりに取り組む日本たばこ産業（JT）と、九州旅客鉄道（JR）の新入社員研修が８月２日にゆのまえ温泉「湯楽里」一帯で開かれ、九州各地の社員32人が森づくりの学習や鶴田正已町長との対談などで仕事や社会貢献活動への思いを高めていました。

研修はJTで行われている森づくり活動の理解を深めようと開催され２回目でJRの社員の参加は初。社員は国内の森林・林業の現状を学び、JTの森や上球磨森林組合出荷センターなどの現場などを見学。町長との対談でも積極的に質問しました。酒井謙一さん（23＝大分支店）は「森林の整備は予想以上に長い時間がかかると感じた。JTの森の活動の意味が理解できた」と話しました。

町職員の説明を受け、JTの森を見学する社員

開設50周年記念で町へ寄付
多良木ロータリークラブ

多良木ロータリークラブの村井信隆さん（79＝下城）と向江富士夫さん（60＝植木）が７月27日に湯前町役場を訪れ、クラブ開設50周年記念として、10万円を寄付しました。

同クラブは地域貢献を目的に活動する団体で、現在会員は22人。錦町～水上村までの５町村で活動し、子どもたちのスポーツ交流や、地域の美化活動などを行っています。

今回はクラブ開設50周年記念として、活動する５町村に寄付。過去にクラブの会長を務めた経験のある、村井さんと向江さんが役場を訪れ、鶴田正已町長に寄付金10万円を手渡しました。二人は鶴田町長へ「防災関係に使ってほしい」と話していました。

鶴田町長へ寄付を手渡す村井さん（左）と向江さん

離乳食作りで母親交流
フォーリーブス離乳食教室

離乳食作りを楽しむ母親たち

慈光こども園の子育てサークル「フォーリーブス」の離乳食教室が８月３日に保健センターで開かれ、球磨郡内や西米良村から親子６組が参加し、調理の方法を学びました。

今回は離乳食作りをテーマに４カ月～９カ月の子を持つ母親が参加しました。３人の保育士が別室で赤ちゃんの子守りをし、参加者たちは町の管理栄養士である田中朋子さん（53＝上里３）から、「ナン」「チキンと野菜のトマト煮」「りんごのくずもち」などを作る過程で離乳食を作る方法を学びました。遠山蒼士くん（９カ月）の母親の侑未さん（27＝あさぎり町）は「みんなで楽しく活動できた。昆布だしを水出しでとる方法を教えてもらったので、家でもだしをとって、離乳食を作ってみたい」と話していました。

文化の宝を生かそう
日本遺産講座

地域の文化遺産を活用する大切さを学んだ受講者

日本遺産講座が７月25日に農村環境改善センターで開かれ、湯前町、多良木町、水上村の住民約50人が参加し、管内の歴史や文化を学びました。平成27年度に人吉球磨の文化財でつくられたストーリーが県内第１号として同遺産に認定。地域の文化財の魅力を多くの人に知ってほしいと３町村の教育委員会が主催し、本年度、３回の講座を予定。

今回は、多良木町教育委員会の学芸員、永井隆宏さんが講師を担当しました。永井さんは人吉球磨の石塔に注目しながら、地域に豊富な文化遺産があることを説明。「東京オリンピックで外国人旅行客が増え、古民家や食文化を活用する必要があり、まずは地域住民の皆さんに、地元の魅力に気づいてほしい」などと話していました。

つかみ取りやバザーにぎわう
JA湯前店納涼祭

水槽の角に追いつめ、マスをゲット

球磨地域農業協同組合（JA＝福田勝徳組合長）の第39回湯前店納涼祭が８月11日に同店の駐車場で開かれ、来場者は各種バザーやマスのつかみ取りなどの催し物を楽しんでいました。

会場うしろ側に設けられた水槽では、名物「マスのつかみ取り」が行われ、子どもから大人までが、素早く逃げるマスをつかもうと、水しぶきを上げて走り回っていました。

会場内では、Ａコープ、JA女性部・青壮年部などが九つの店を出し、フライドポテトやフランクフルト、焼き鳥、かき氷、生ビールなどを販売。ステージでは、コーラスグループ「デル・フィオーレ」やプロ歌手の綾野さつきさんによるショー、もち投げが行われ、にぎわっていました。

戸籍の窓

平成30年7月1日～7月31日

ご結婚おめでとう

山田　真司（八代市）
倉本　亜利佐（馬場）

ご冥福をお祈りします

谷口　マツ子（上里３）
倉本　孝臣（馬場）
安藤　文（植木）
堤田　セジ子（下染田）
白坂　八千代（上猪）

香典返し

岸川　由美（下村）
倉本　博幸（馬場）
谷口　清民（上里３）
安藤　隆雄（植木）
堤田　初雄（下染田）
三吉　千嘉子（下村）

ひとの動き

（７月末現在）

男性	1869人
女性	2107人
計	3976人
世帯数	1625戸

Dietary habits

管理栄養士だより

災害時にも役立つ「パッククッキング」

※パッククッキング…食材をポリ袋に入れて加熱する調理法
（家庭向けの真空調理法）

■メリット

・少ない調味料で味付けができる
・１人分のおかゆや煮物も簡単に作れる
・栄養やうま味を逃さない
・１つの鍋で複数の料理が作れる
・鍋が汚れないので後片づけが簡単、
・袋のまま食べることができ、衛生的

ウィンナーカレー（１人前）

（材料）

ウィンナー…………１本
じゃがいも………４０ｇ
にんじん…………２０ｇ
たまねぎ…………３０ｇ
カレールウ………１かけ
ケチャップ…………５ｇ
水………………１００cc

■作り方

①ウィンナー、じゃがいも、にんじん、たまねぎを１～１.５㌢くらいの大きさに切る
②カレールウを溶けやすいように刻む
③ポリエチレン袋に材料と調味料を入れて、沸騰したお湯に２０分入れる
＊途中で袋を持ち上げ、中身を対流させる

■ポイント

〇空気を抜きながら先端を結ぶ
〇鍋を沸かす水は、６分目程度にする
〇取り出すときは、やけどに注意する

管理栄養士　田中　朋子

Health

保健師だより

いつもの風邪と違う症状に注意　　9月24日～30日は結核予防週間

結核は結核菌によって起きる日本の主な感染症の一つ。毎年新たに１万8000人ほどの患者が発生していて、世界的に見ても日本はまだ結核が多い国です。空気感染で呼吸症状を起こすのが一般的ですが、必ずしもすぐに発症するわけではなく、体内にとどまった後、抵抗力が弱った時期などに、活動を再開して発症することがあります。

それっていつもの風邪ですか？

いつもと違うところを医師に伝えましょう。
次のことに当てはまるときは結核の可能性があります。

☑痰のからむせきが２週間以上続いている
☑微熱・体のだるさが２週間以上続いている
□最近、海外旅行から帰ってきた
□体に淡いポツポツがでてきた
□山遊びでダニにかまれた跡がある
□耳の後ろのリンパ腺が腫れているような感じがする

結核は、適切な治療薬があり６～９カ月間飲み続けると、きちんと治ります。
治療費用も届け出をすることで補助が受けられます。

結核予防会では「結核のない世界」をつくるため、複十字シールによる募金活動を行っています。収益は結核予防の普及や啓発、開発途上国への支援に活用しています。

（参照：厚生労働省ホームページ）

保健センター　中西　博子

Ecolog

ごみ情報

リサイクルステーションからのお願い

ペットボトル、スチール・アルミ缶を洗わずに出してありました。キレイに洗ってから出してください。リサイクル品を運ぶときに使ったビニール袋が隙間に残してありました。きちんと持ち帰ってください。

隙間に挟まれたビニール袋

大きな事故になる前に確認
油流出事故防止

水質事故は、いったん事故が発生すると重大な事故になりやすく、環境に大きな影響を与えます。事故の費用は原因者の負担（※）です。費用も大きくなります。油類の使用には十分に注意してください。

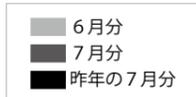
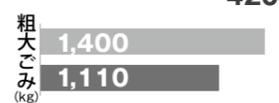
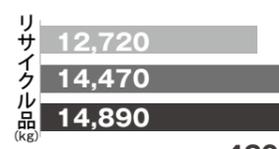
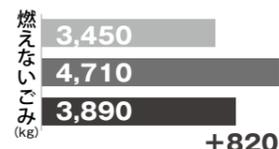
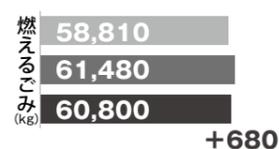
〇給油前や油の減りに注意

①給油する時は目を離さない（目を離したすきに溢れている事例が多数）
②給油前に、タンクや配管の破損がないか確認
③油の量を確認。油の減りがいつもより多いときは、漏れがないか確認
④不要になった油は処理業者などに処理を依頼

〇事故が起きたら上球磨消防署へ連絡を

すぐに上球磨消防署（℡0966-42-3181）に連絡し、指示を受けて、土のうなどで油が広がらないようにしてください。中性洗剤は絶対に入れないでください。油が混ざると、水面に浮かんでいる油が水中に混ざって回収が難しくなります。

※消防署や役場の備品である「吸着マット」や「オイルフェンス」の弁償、油が浸透した土壌の入れ替え作業など、莫大な経費と労力がかかる

(kg)	6月分	7月分	昨年の7月分	
燃えるごみ	58,810	61,480	60,800	+680
燃えないごみ	3,450	4,710	3,890	+820
リサイクル品	12,720	14,470	14,890	−420
粗大ごみ	1,400	1,110		
有害ごみ	40	50		

Books

読書のススメ

中央公民館図書室 ※貸出期間２週間/一人５冊まで
〇平日 午前８時30分～午後５時　〇土日・祭日 午前９時30分～午後５時
問教育委員会 TEL0966－43－2050

かわいく、分かる
消しゴムはんこ。
津久井 智子（著）　主婦の友社

15歳から消しゴムはんこ作りを趣味で始め、大学卒業後、「象夏堂」の屋号で、オーダーメイドの消しゴムはんこ屋として、インターネット上やイベントなどで人気の作者。本では、基本的なはんこの作り方や活用法をかわいい図案で分かりやすく解説。

退職後の人生を描く
終わった人
内館 牧子（著）　講談社

大手銀行の出世コースから子会社に出向、転籍させられそのまま定年を迎えた田代壮介。仕事一筋だった彼は途方に暮れた。「まだ俺は成仏していない。どんな仕事でもいいから働きたい」。生き甲斐を求め続け、彼の運命の歯車を回す、ある人物と出会う―。

子どもの心の成長描く
ええたま いっちょう！
くすのき しげのり（著）　岩崎書店

今日も先生に怒られた。あの喧嘩は、僕だけが悪いのと違うのに。学校の帰り道、男の子は、泥だらけのボールをひろって交番へ向かった。お父さんの言葉を思い出して…。男の子と若いおまわりさんの「心のキャッチボール」。子どもの心の成長を描いた一冊。

秋の美しさいっぱい
14ひきのおつきみ
いわむら かずお（著）　童心社

色づいた葉と、どんぐりの実の揺れる太い樫の木を登り、ねずみながらの小技を使ってお月見台作りに奮闘。その光景を木の上から描写した構成は立体的で、まるで迷路を見ているかのよう。夕日が沈み、満月が昇る場面は壮観。日本の秋がいっぱいの作品。

青年団だより

広報部長
森川 未月

資金作りのご協力ありがとうございました

体育祭や文化祭、町の行事などで活用していきます。
ご協力いただきありがとうございました。

文化祭練習

いよいよ文化祭間近。
どの演目も優勝目指して頑張っています。

7月21日(土)　錦町青年団との交流会

7月29日(日)　熊本県総合青年祭体育の部　氷川町
バドミントンに参加しました。結果は4チーム中、惜しくも球磨村についで2位でした。

8月18日(土)　ぶどう祭りバザー

❶県青年祭バドミントンで2位となったメンバー
❷❸パートごとに分かれてダンスの練習、文化祭まであとわずか

これから

9月8日(土)、9日(日)　球青協文化祭
あさぎり町須恵文化ホール

9月　大交流会

Smile ▼

ゆのまえがお

左座(ぞうざ) 可奈子(かなこ)さん
(26=野中田2)

□ひとこと
「球青協文化祭に向けて、青年団員みんなで練習を頑張っています。ぜひ見に来てください」

「笑顔がすてき」「何かPRしたい」などたくさんの人を待っています
企画観光課 地域おこし協力隊まで TEL 0966-43-4111

Front Page ▼

今月の表紙

納涼祭名物のマスのつかみ取り大会。子どもたちはマスを捕まえようと水しぶきを上げながら追いかけました。ようやくつかんだと思った矢先、ピチピチと跳ね、手からすべり落ちるマス。参加者も、それを見る人も夏の風物詩を楽しんでいました。

編集後記

▼湯前中ワークキャンプの写真。何気ない活動の一場面なのですが、生徒の笑顔になぜか惹きつけられるものがありました。インタビューした子は、利用者にあまり話しかけられなかったと自分の行動を悔やんでいましたが、ずっと笑顔で利用者と接していました。うまく言葉で伝えられなくても、その表情で気持ちが伝わっているような気がしました。特集の取材でもたくさんの笑顔に出会いました。あらためてこの町が好きだと気づかされました。▼裏表紙で取り上げる椎葉さん。町民文化祭の展示で写真を見た時から、「いつか紹介したい」と思っていました。見せてもらったアルバムには、おもしろいアイデアの写真や、美しい風景、人物写真がずらり。「椎葉さんのように、見る人の心に届く写真が撮りたい」。私も努力したいと思います。▼締め切り迫る8月23日。出勤してパソコンをつけるとブザー音。パソコンが立ち上がらなくなり、ショックで立ち上がれない㊎。自然災害も、パソコンも「備え」が必要なのですね…。(㊎)

【お詫びと訂正】
広報8月号15㌻の戸籍の窓で誤りがありました。訂正し、深くお詫び申し上げます。
【誤】石原勇馬　【正】石原友馬

あの鐘を鳴らすのは・・・。

外にかかっている半鐘は4つ、浅鹿野には杵もある

私は湯前に来て初めて消防団を知り、とても興味を持ちました。ある日町内を散策していたときのこと。消防詰所の階段の上に鐘がかかっているのを見つけました。詰所にあるので、何となく使い道は分かるのですが、くわしい使い方が気になったので調べてみました。

リポーター
安井 佳奈

詰所にかかっていた鐘は"半鐘(はんしょう)"と呼ばれ、危険をまわりに知らせるためのものでした。今では、火災が発生するとサイレンが鳴りますが、防災無線がなかったころは、半鐘を使って火事を知らせたそうです。あるおじいさんは「火事があったときは、現場に一番近い詰所がとにかく連打しよった」とのこと。

下城の詰所に半鐘の打ち方の紙があるとの情報をもらい、実際に見せてもらいました。近火信号・出場信号・打ち方など、すべて手書き。何を知らせるかで打つ回数やリズムが違いました。その紙は、年期が入っているため、額に入れられ詰所内の壁に掛けられていました。現在、15カ所のうち、外にかかっているのは4カ所しかありませんが、ポンプ倉庫に半鐘を置いている詰所もあるそうです。

1月の出初め式、4月の入退団式・操法大会、寒い中、地区の見回りをする年末警戒、月2回の機械点検など、お仕事がたくさんの消防団。鐘から防災無線に変わろうと役割は同じ。火災現場の初期消火や災害時の対応など、サイレンが鳴れば、すぐに着替えて現場へ向かう、頼もしい姿。消防団の皆さん、いつも地域を守ってくださって、ありがとうございます。

額縁に飾られている半鐘の打ち方。何を知らせるかで打つ回数やリズムが違う

「ゆのまえかじり」はこちらから

まんが図書館で人生の教科書が見つかるかもしれません

協力隊のゆのまえ暮らし(隊員がゆる〜く近況報告)

漫画という教科書

まんが図書館が完成し、嬉しい椎葉です。ある漫画で哲学的な言葉を見つけました。「人々は組織の中で個人を埋没させ、周囲との強調ばかりをはかってきた。無難に社会の常識からはずれぬよう、個人として責任を取りたがらない時代の病気だ」。漫画を読んでいたのに自分を振り返っていました。そんな一風変わった教科書を見つけられるかもしれませんね!

椎葉 賢也

「熱中症に気をつけてください」と笑顔で住民と接する吉田さん

吉田梨音さんが役場の仕事を体験
人吉高校生インターンシップ

人吉高校2年生の吉田梨音さん(野中田1)が8月2、3日に湯前町役場で職場体験を行い、働くことのやりがいを学びました。

吉田さんは「進路を考える中で、公務員にも興味があった。どんな仕事をしているか見てみたかった」と役場で体験することを決意。保健福祉課で働き、住民が各公民分館で取り組んでいる「いきいきクラブ」や、健康相談のお手伝い、離乳食教室の準備や片付けなどに汗を流しました。

吉田さんは「高齢者から小さな子どもまで、普段かかわりのなかった人たちとも交流できた。赤ちゃんのことなど専門的なことを学べた。今までに感じたことのない、仕事ならではの緊張感も感じた」と話していました。

笑顔で利用者と交流
湯前中ワークキャンプ

笑顔で利用者と交流する生徒

湯前中学校(古家愼也校長)のワークキャンプが8月7、8日に特別養護老人ホーム「福寿荘」とあさぎり町の「翠光園」で行われ、15人が介助体験やレクリエーションで利用者と交流を深めました。

取り組みは同校と社会福祉協議会が行うもの。福寿荘のワークキャンプには3年生4人が参加。車いすや視界を狭めるゴーグルなどを使った模擬体験で利用者の体の状態を体感し、実際に入浴や食事など利用者の介助を手伝いました。

二日目には月に一度のお楽しみ会や中学生自らが考えたクイズなどのレクリエーションで交流。利用者に笑顔で道具を渡したり、移動するときには自主的に椅子を運んだりするなど、生徒たちは思いやりをもって行動していました。

初めて参加した土屋乃愛さん(同校3年=浜川)は「介護の仕事の大変さが分かった。思ったように話しかけることがなかなかできなかったが、笑顔で接することができて良かった」と話していました。

7月24日、25日には湯前小学校で同様の取り組みが行われ、高齢者生活福祉センター「湯愛」に5年生5人、福寿荘には6年生4人が参加しました。

SUPでドイツの若者と交流した海洋クラブ

水上で国際交流
海洋クラブがドイツの若者とスポーツ交流

第45回スポーツ少年団同時交流事業が8月3日から7日に上球磨地域で行われ、B＆G海洋クラブの小学生8人がドイツの若者たちとスタンドアップパドルボード(SUP)で交流しました。

事業は両国の少年団の交流で友好を深め、お互いが国際的な能力を高められるようにと日本体育協会日本スポーツ少年団などが主催。ドイツから約125人が日本を訪れ、10人程度に分かれて全国各地でスポーツ交流や文化財見学などのプログラム体験をしました。

上球磨地域にはマインドスポーツ「チェス」のグループに所属する16歳〜25歳の男女9人が訪れ、海洋クラブの児童と一緒に市房ダム湖でSUPを体験。海洋クラブの子どもたちは、一緒にボードの上に乗り、ジェスチャーを交えながら笑顔でコミュニケーションをとり、終わったあとも自分たちから話しかけていました。ドイツの若者たちは自国のお菓子をプレゼントし、子どもたちにお礼を伝えていました。

❶おさる画伯からアドバイスを受けてうちわを作る子ども❷最後まで書ききることの大切さを学んだ❸自分だけのうちわが完成

おさる画伯とうちわ作り
まんが図書館夏休み特別企画

まんが図書館の夏休み特別イベントが7月30日と8月17日に、レールウイング内の展示体験販売施設で行われ、小学生らが、おさる画伯こと町内在住のイラストレーター、大野愼也さん(39=中里2)から絵の描き方を学び、似顔絵入りうちわを作りました。

子どもたちが絵を描くことで、より漫画に親しめるようにと企画。以前同施設で展示を開いたことのある大野さんが講師を務めました。

8月17日には上球磨3町村から親子14人が参加。クレヨンやマジックペンを使い、うちわの表に自分の似顔絵、裏には花火やスイカなど夏を感じるものを自由に描いていました。

参加した迫田和真さん(湯前小学校6年=中里2)は「眼球の色などに注意して似顔絵を描いた。普段はあまり絵をかかないけれど、楽しかった」と話し、大野さんは「とても上手な子もいて、驚かされた。うまい下手ではなく、一つのものを完成させることが大事だということを一番に伝えた」と話していました。

同図書館では、7月21日から9月2日まで、漫画を上手に紹介した一人に、図書カードをプレゼント。館内のキッズ用塗り絵のスペースに大人も楽しめる塗り絵を用意するなどの企画も行っています。

近くで見る牛に感動
湯愛学童クラブが子牛品評会を見学

牛を間近に見て、品評会の順位を自分たちで予測

湯前町子牛品評会が8月1日に畜産センターで開かれ、社会福祉協議会が運営する湯愛学童クラブの小学3〜5年生24人がその様子を見学しました。

子どもの食育として、畜産農業協同組合湯前分区(野田一久分区長)が社協に呼びかけ、初めて見学が行われました。事前に役場農林振興課の職員が見学するときの注意事項を児童に説明。続けて、本町の肉牛の頭数や肉質の違い、子牛一頭の価格、牛の年齢などをクイズとして出し、児童たちは鉛筆をもって、答えをノートにメモ。

畜産センターの室内では、牛のエサとなる牧草「イタリアンライグラス」の説明を受けたあと、においをかいだり、触ったりもしていました。その後、牛の近くまで行き、実際に大人が評価しているところを見学。児童は、自分たちで順位も予想しました。

職員から聞いたことをメモして学ぶ児童たち

椎葉心美さん(湯前小4年=野中田3)は「今まで遠くで牛を見ることはあったけれど、こんなに近くで見るのは初めて。どうやって順位を決めているかが分かっておもしろかった」と話していました。

広報湯前
活き活きと輝き、誇れる町の今をあなたに届ける
Public Relations Since1962.
9 Sep 2018 Vol.447
平成30年8月31日発行第447号
発行/湯前町役場総務課 http://www.yunomae.com/ 〒868-0621 熊本県球磨郡湯前町1989-1 TEL0966-43-4111 印刷/(有)ソーゴーグラフィックス

VOL.13
Focus フォーカス
Focus on hot human.

ワクワク忘れず感じたものを写真に込める――

椎葉國忠さん 77 上村　敦子さん 71

カメラを手に、各地を駆ける椎葉國忠（くにただ）さん。本格的に写真を撮り始めたのは30歳を過ぎてから。モノクロ写真を現像する夜は「写真が出てくる瞬間が楽しかった」と暗室にこもり、夕飯を後にするほど没頭した。

子どもが5、6歳のころにイチョウのじゅうたんの上を走り回っている様子を撮影。その写真を熊日月例写真コンテストに出したところ、入賞。どんどん写真がおもしろくなっていった。

被写体は人物から風景まで幅広い。特に祭りの写真は多く、県内の祭りには何度も足を運んでいる。車を使い、時間は早朝から夜、場所は海から山までさまざま。「カメラがあると行く先々がおもしろくなる」と心をおどらせ、汗だくになって走り回り、構図を探る。

時には低い位置から迫力のある絵を狙い、時には高速シャッターで水しぶきを写し込むなど、自分の気持ちを一枚一枚に込める。「その場所の雰囲気を伝えたい」とファインダーの端から端まで気を配り、背景にもこだわっている。

妻の敦子（あつこ）さんと一緒に、たくさんのコンテストに応募。二人で同時に入賞するなど、栄光は大きなアルバムにも収まらないほどだ。

「何を目で見て、何を感じて、どう写真で表現するかに尽きる。熊日写真展の上位3点に入るような写真が撮りたい」。椎葉さんはいつもカメラの「ワクワク」を忘れない。さらに上を目指してシャッターチャンスを狙っている――。

❶フィルム機からデジタル機へとメーン機材が変わっても「ワクワク」は当時から変わらない❷走り回って撮り続けた汗の結晶。入賞作品はアルバムに収まり切れない❸モデルの足より低い位置に入り込み広角レンズで撮影。モデルや空だけでなく、灯台や水平線の位置まで気を配って撮影